

学びの風便り

リーディングスクール通信43 R7.5.30

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



学びの改革のあゆみ 旭町小学校・岡田小学校



旭町小学校 「ゆる研」と小中連携で育む Well-being な学び

今年度からリーディングスクールとなった旭町小学校。旭町小学校では、先生方の“やりたい研究”「ゆる研」に加え、この5月には旭町中学校との連携を深める新たな一歩を踏み出しました。

みんなでつながり楽しみながら、ゆるく深く掘っていく

旭町小学校では、先生方が「やりたい!」という熱い思いを持ち寄り、グループで研究を進める通称「ゆる研」が行われています。今年度も4月の「ゆる研びらき」では、ユニークな自己紹介や、模造紙・付箋を使った熱心なトークで大いに盛り上がり、先生方のやる気が満ち溢れていました。この「ゆる研」は、学校の研究テーマである「問い・願い・課題を大切に、対話とトライ&エラーを重ねながら、学びとくらしをデザインする子どもと教師を、先生自身が実践する場でもあります。目指すは、子どもと教師双方の Well-being (ウェルビーイング) な学びとくらしの実現です。

新たな挑戦!小中学校合同ワークショップ

5月9日には旭町中学校との合同研修が開催されました。これはリーディングスクール事業の一環として、小中学校の教員が顔見知りになり、9年間を見通した子どもたちの育ちを共に支えるための大切なキックオフ企画です。

この研修の目標は、「小中の先生方が気軽に話せる雰囲気を作り、心理的なハードルを下げること」でした。また、リーディングスクール事業を「やらされる」のではなく「チャンス」と捉え、連携に前向きな気持ちをもってもらうことや、先生方一人ひとりが自身の教育実践における小さな一歩(プチチャレンジ)を見つけることも大切な目標としました。



当日は、まず両校の研究主任から、事業や小中連携の目的(分断されている学びをつなぎ、9年間の育ちを支える等)が説明されました。その後、アイスブレイクを経て、4人程度のグループで、自身の小中学校時代の「楽しかった思い出」を語り合いました。さらに、共有された体験を踏まえ、「どんな子どもが育ったら幸せか?」という理想の姿を考え、最後にその理想に近づくための「自分ができそうな小さな一歩(プチチャレンジ)」を考え、書き出し語り合いました。

「ゆる研」と「小中連携」がつなぐ未来

旭町小学校の「ゆる研」で育まれる先生方の主体性と探究心。そして、中学校との合同研修で芽生え始めた新たなつながりと共感。これらの取り組みは、先生方一人一人の Well-being を高めるだけでなく、学校間・校種間の垣根を越え、子どもたちの9年間の学びと育ちを豊かにデザインしていく大きな力となることでしょう。「対話」と「トライ&エラー」を大切にする旭町地区の先生方の挑戦が始まりました。

＊ 岡田小学校 「のびのび・わくわく・どんどん」をみんなで創る ＊

学校教育目標をみんなで練り上げる

今年度より、新たにリーディングスクール実践校の仲間入りをした岡田小学校の学校づくりへの歩みは、昨年の2学期からスタートしました。まず先生たちが「どんな学校を創りたい?」「どのような子どもの学びを願う?」等について考えました。さらに子どもたちにも「岡田小学校でみんなと先生で大切にしたいことは何ですか?」と問いかけ「思い」を寄せてもらいました。こうしてみんなの学校教育目標「みんなかがやけ!～わかりあい・たすけあい・まなびあい～」が出来上がりました。

先生たちの対話を豊かに

岡田小で大事にしているのは、先生たちも「のびのび・わくわく学び、どんどんチャレンジ」することです。そのために、年度当初から先生方のコミュニケーションの機会をたくさん位置付けました。4月の重点研究会では、先生たちが「自己課題」について思いを語り合うことからスタート。グループを組み替えながら交流を重ねる中で、話し合いが一層活発になり、先生方の「問い」がぐんぐん具体的になったといえます。

「みんなで楽しく学ぶ」文化が生まれる

4月22日には、全職員で「学級づくりワークショップ」(講師: 軽井沢風越学園 岩瀬直樹先生)に参加しました。これがこれまでの前向きな動きを一層加速させた(校長先生談)といえます。「みんなで参加できて本当によかった」と口々に語られた先生方。研修で学んだことを教室で実践し、その子どもの様子を楽しく語り合う動きが、翌日から生まれました。

さらに、この経験から先生方の「実践をみんなで共有したい!」という思いが高まります。毎週の重点研究会で、先生方が「やってみたい研修」を主体的に企画・実施することが定着しました。初任者の先生が大学で学んだ「対人関係スキル研修」を実施した折には、懸命に頑張る先生を全校の先生方が温かく支えるなど、みんなで楽しく研修を創り、学ぼうという機運が高まってきています。

研修を通して学んだことを子どもたちとやってみて、その様子や手応えをみんなで語り合い、やってよかったという思いをもち合う、そんな文化が生まれつつある岡田小です。

先生たちの「まなざし・語り」が変わる

「先生たちの『空気』の変化は、様々な形であらわれています。」と、染川校長先生は話されます。

「職員室で、子どもの姿を語り合う先生たちが増えてきました。「お便り」にも子どもたちの様子や先生の思いがたくさんあふれています。また、『先生は嘘つきだ。いつも失敗していい、と言っているのに今回は僕に失敗させないようにしている、とある子どもから言われました。自分の思いを伝える言葉の足りなさを実感し、話し合えてとても嬉しかったです』と話してくれた先生もいます。子どもの『葛藤』に寄り添い『成長』を見つめようとする先生たちの姿をととても嬉しく思っています。」

「子どもと『一緒に創ろう』という意識も、少しずつ先生たちに浸透してきました。先月行われた運動会にあたっては『見かけのよさ』ではなく、子どもたちが『やってよかった、たのしかった』という思いを大事にしようと取り組んでいました。子どもたちも、昨日より今日、もっとよくなるにはどうしたらいいかをみんなで話し合う姿が増えました。それを温かく見守ろうとする先生たちのまなざしを感じました。当日は、子どもたちの姿に、保護者の皆さんや先生たちが感動し涙を流していました。みんなで創った喜びをみんなで味わえた、大切な思い出になりました。」

「のびのび・わくわく学び、どんどんチャレンジ」を合言葉に、対話と実践を重ねながら、新たな「学校文化」を紡いでいく、岡田小学校の先生たちです。

